

東村山稲門会ニュース 第11号

H10年5月 6日 発行

発行責任者、大西 幸夫

編集局 塩見 之一

田口 政澄

事務局、0423-94-6951 小亀 輝雄

I. 会からのお知らせ

◎. 6月定例役員会の案内

日時：6月6日(土) 13.30～14.00 発送準備(有志による)

14.00～16.30 役員会

場所：市民センター 別館 第6室

なお、一般会員も時間の都合がつく方は気楽にご参加ください。

◎. 花見大会について

○ 4月4日(土)に、お花見を狭山公園、多摩湖堰堤下にて行いました、当初の企画なので、その成否を心配しましたが、幹事諸兄の朝からの場所取り、飲食物の用意などの御尽力もあり、また晴天に恵まれ、参加人数41名、富塚さんのウクレレの伴奏による合唱などもあり、和気あいあいのうちに、おおいに盛り上がりました。

なお、おめあての桜も当日はまさに満開、どなたかが『好天、満開の本当に満足できるお花見は一生の間に2～3回しかチャンスに恵まれない』と云ってましたが、今回は、その数少ない中の一回だったと思われます。

来年もより多くの方々の参加によるお花見会を期待いたします。

幹事の皆様ご苦労様でした。

◎. 東久留米稲門会第4回年次総会

4月19日(日)に東久留米市役所新庁舎、市民プラザホールで開催

(1) 講演会：講師 瀬古利彦氏 一般市民に開放、約160参加

(2) 総会：会員142名中約75名参加(市内在住校友数：約800名)

(3) 懇親会：於、市役所内の大会議室

のスケジュールで行われ、ゲストは大学校友会2名、近隣稲門会は武蔵野、保谷、田無、小平、清瀬および東村山からの出席でした。

活動内容の特徴としては年1回の会報発行の他、四半期に1回、年4回はがき通信を実施、サークル活動は散策・山歩き、ゴルフ、囲碁、俳句、書道の他に女性サークルが活発で見学会3回、毎月集会を行っているようです。

また、今年は初めての企画として、10月に早大グリークラブをメインとした演奏会を一般市民開放の500名規模で考えているようです。

なお、「散策・山歩き」のサークルが6月に東村山北山公園のアヤメと八国山歩きを予定したいので、東村山と合同企画は如何かと提案がありました。

後述、ウォーキング同好会案内(町田さん)参照

(大西)

ゴルフ同好会

○ 第3回コンペ4月18日(土) 報告

天気予報は昼頃から雨、雷も鳴るとの心配なスタートでしたが、臆面もなく「晴れ男」と挨拶した幹事(井垣・松永)に天も恐れをなしたか、途中から薄日も射す絶好のゴルフ日和となり、初参加5名を含む17名の参加者は新緑の五日市カントリーで心ゆくまで芝刈り・砂堀りを楽しみました。

結果は45・44のベストグロス89で手堅くまとめた吉本さんが、同グロス89で2連覇をねらった井垣さんを、ネット1.2ストロークの僅差でかわし優勝、稲門会長杯と賞金・副賞を手に入れました。

3位賞は大西さん、ブービー賞は塩見さんが獲得。塩見さんご本人が描き寄贈したブービー副賞の絵画は、15位の藤沢さんに繰り上げて渡されました。

あわやホールインワンかと思わせた大西さんのニッピン賞、体調回復された野口さん(S27卒)のドラコン賞など数々のプレーについて話題の花がミーティング会場に咲き乱れ、和気藹々のうちにお開きとなりました。

秋に予定される第4回の幹事は吉本さんと戸田さんをお願いすることになりました。お楽しみに。(井垣 記)

○ 練習ラウンド報告

大西さんのご紹介で春の連休初日の4月29日秩父の長瀨カントリークラブで、既報の練習ラウンドを行いました。

幸い好天に恵まれ半袖姿の3組のプレーで、後続組のショートアプローチやバットに声をかけ合いながら楽しい一日を過ごしました。

(取材 塩見)

知っ得ゴルフ(2)

2番ホール

同じスタート地点から、同じ組の最終の人が穴へ入れ終わるまで、上手も下手も歩調を合わせて進むのがゴルフ。穴入れまで3回で済ます人もいるのに7回も球と遊ぶ輩もいて調子を崩される。その上終わった後も未練がましく素振り続ける人もいたりして、まるで切れの悪い立ちションのおじいさんみたい。

球(ボール)が穴(ホール)に入る(球がホール内に停止し、球全体がホールの縁よりも下にある状態)のがホールイン。穴の縁と竿の間に挟まっている場合は旗竿を持ち上げて球がホールの縁よりも下にある状態にしなければダメ。『ちゃんと入っていないのに、手でタマをいじくったりしちゃダメよお客さん。』(ゴルフ同好会 井垣)

絵画同好会

5月の定例連絡会を下記の要領で行います。オープンシステムをとっておりますので初めての方もお気軽にご参加下さい。

記

日時 5月16日(土) pm 1:00 ~

場所 中央公民館1Fロビー

連絡先 宮 ☎ 391-7542

塩見 ☎ 395-3718

○ 東村山市美術連盟7月展の公募要項が届いております。地元開催で搬入・搬出が楽な点と、年会費・出品料(年2回)各千円と手軽ですので、関心のある方はお問い合わせ下さい。(塩見)

麻雀同好会

お陰様で麻雀同好会もほぼ定着して参りました。先にちょっとご案内いたしましたが、第四回の大会を下記の要領にておこないますので奮ってご参加ください。また仕入値のかかっていないお手持ちの品があればお持ちいただければありがたいです。

6月に練習試合を予定していましたが小野、田口ともにスケジュールがつかず、今回は同好会としてはパスさせていただきますので、ご了承願います。

記

日時: 6月14日(日) 12:30 ~ 18:30

場所: マージャンM

本町 4-12 アメニティバレス B1

TEL: 397-5228

会費: 6千円

(プレー、賞品、懇親会代金含む)

申込締切: 6月 6日(土)まで

申込先: 会長 小野 (TEL 391 9523)

田口 (TEL 395-4077)



カット提供 宮 輝雄

ウォーキング

同好会

この度、東久留米稲門会と合同で、また、園芸クラブ・郷土史の会の協力のもとに、北山公園の菖蒲鑑賞を中心として、ミニウォーキングを行います。

ご家族お誘いの上、お気軽にご参加下さい。

1. 日時 6月13日(土) 13～17時 ※小雨実施
2. 集合場所 東村山駅西口 13時
3. コース 東村山西口 13時 → ふさと歴史館 13:30～14時 → 八国山緑地 → (4km) → 北山公園(菖蒲鑑賞15時～16時30分) → 正福寺 → (6km) → 東村山駅東口 17時

4. 問い合わせ先

町田 田 042-393-5111 東村山市役所
内線 2551

042-394-2438 自宅

5. その他 ミニウォーキング終了後、有志希望者による懇親会を行います。
場所は東村山駅周辺で、時間は17時～19時、会費は3,000円程度。
是非、こちらもご参加お願いします。

園芸クラブ

第3回園芸クラブ ご案内

先にご案内致しました第2回園芸クラブの会を予定通り 4月25日(土)に行い都立神代植物公園へ桜草等観賞に出かけました。

会長の藤沢博恭氏(昭29 政経)のご案内でまず園内入口近くのさくらそう展で、約 250点の見事な鉢植えをご説明頂き、引きつづきツツジ、エビネ、ハナミズキ、ボタン、シャクナゲ等色とりどりの正に百花繚乱の中を散歩、大温室内の珍しい植物、ペゴニャや洋ラン類等を鑑賞致しました。そしてお昼に近くの深大寺手打そば深水庵で参加者一同(9人)でビールで乾杯、筍・野菜等の天ぷらや、ざるそばに舌鼓を打ち、そのあと深大寺を参詣、散会致しました。藤沢会長さんに感謝申し上げます。

次回会合は、東久留米稲門会の有志と東村山稲門会ウォーキングの会と園芸クラブと合同で、下記日程で、北山公園の菖蒲苑へ行きます。小雨決行。

日時 平成10年 6月13日(土)

13時 東村山駅西口バス停前集合

(詳細は前記ウォーキング同好会の項をご参照下さい。)

郷土史の会

第7回郷土史の会 ご案内(再掲)

今年度第3回の郷土史の会同好会を下記日程で催します。メンバーの小亀輝雄氏(昭34商)の進行により座談会形式ですめる予定です。

日時: 平成10年 5月23日(土) 12時30分～16時

場所: 東村山ふるさと歴史館 研修室

会費: 500円

東村山市の歴史や文化等について知ること、興味のあること等を持ちより話しあう予定です。どうぞお気軽にご参加下さいませようご案内致します。

代表幹事 三宅良太(394-4298)

なお、園芸クラブとウォーキングの会と合同で 6月13日(土)八国山散策と北山公園の菖蒲苑へ行きます。

(詳細は前記ウォーキング同好会の項をご参照下さい。)

編集後記

本紙ニュースの記事が同好会の急速な発展により輻輳し嬉しい悲鳴をあげております。月刊ニュースの発行と、会員の手によるニュース他の直配システムは東村山稲門会の際立った特色になっており学内および、近隣の稲門会間で好評です。

昨年秋の校友会大会(ホームカミングディ)当日、校友に知人が多いところから案内役を大学から依頼されて会場に出ていた私に奥島総長が握手を求められました。周囲に多数の人が居たため言葉少なでありましたが、大西会長をはじめ役員の方々や同好会幹部の方々のご尽力に対する感謝の気持の表われと受けとめて、握手を強く応えさせて戴きました。

今後は、パソコンの O.S の違いによるディスク編集の障害を除き編集を効率化することが懸案となっております。また、上記直配システムは、私の町内の直配では長井さん、井垣さん、小亀さん、と私の四人が協力して負担軽減をはかっており、個人の労力負担が軽くなりました。ご参考までに。

紙面提供の頁については、サンプルのつもりで編集担当が自費出版の予稿を掲載しておりますが、B5一頁分(連載可)の投稿をお待ちしております。(塩見)

思い山の地 (2)

塩見之一

三、続 赤坂山王下。

東京の商家が贅を尽くそうと思えば、赤坂・新橋・築地・浜町河岸などに掛けなければ魚河岸直送の魚介類を食せなかったのが昭和初期の世相でした。

食肉は父や伯父の商売ものでしたから、何も外へ出なくとも店に病院の特別室用の高級品が置いてあるため外食は魚介類に限られた。

赤坂山王下では、正月の脂の乗った近海ものの鰯、春の鰹、秋から冬にかけての秋刀魚の刺身や鰯・鰻などの料理を小学生の頃まで味わった。

伯父に「何故こんなに馳走を食べるのか。」と聞きますと「お前たち子供達もこの味を覚え、苦しくなった時にこれを出して何糞と立ち上がる事が出来る。それが狙いよ。」と言っておりました。

この思い出深い土地には数々の良い記憶があり、軽々しく地名を替えて貰いたくないものだと思います。

山王下から北へ向けて左手の、TBSや青山通りは登りになり青山通り溜池の今のサントリー美術館のところに母方の叔父の住まいがあり、その息子さん(私にとって従兄弟にあたる)の山本正吉さんは日本郵船の各務社主宅の書生に入り一ツ橋大に通学していた。

正吉さんは牛込の家に時折遊びに来て私や兄など子供達の相手をしてくれた。機嫌の良い時はクラシック音楽のスキヤットを口ずさむのが癖のようになっていた、日米開戦後徴兵され陸軍中野学校を経てシンガポールに向かう途中、米潜の魚雷攻撃にあい行方不明となったと知らされたが今でも生きているような気がする。

戦争の最大被害は、若く健康で将来有為な人材を多数前線に送り出し殺し合いに参加させたことで、破壊された「物」の回復は比較的短期間で可能であるとしても、「人」は戦後半世紀を過ぎた今でも特に指導層の一部に歪みがたまっているように見受けられる。良い因子の欠落がまだ埋められていないと解釈せざるを得ない。

赤坂溜池から見附の東は高台で、広大な庭のような趣きあった。高層建築と高速道路のデッサンに土地柄に配慮した跡が各所に認められるが、都市は所詮は庭では無く地盤の固い赤坂・青山一帯は「御所」への気配りの上での今後一層の中・高層化が予想される。

この界限にはまだ知人が残っており特に早稲田族には「空気」と「水質」の点と、標高が高く温暖化による水没の虞れが無く地盤も不安が少ないことを挙げて、東村山市に隠居所をつくるよう勧めている。

(この項終り)